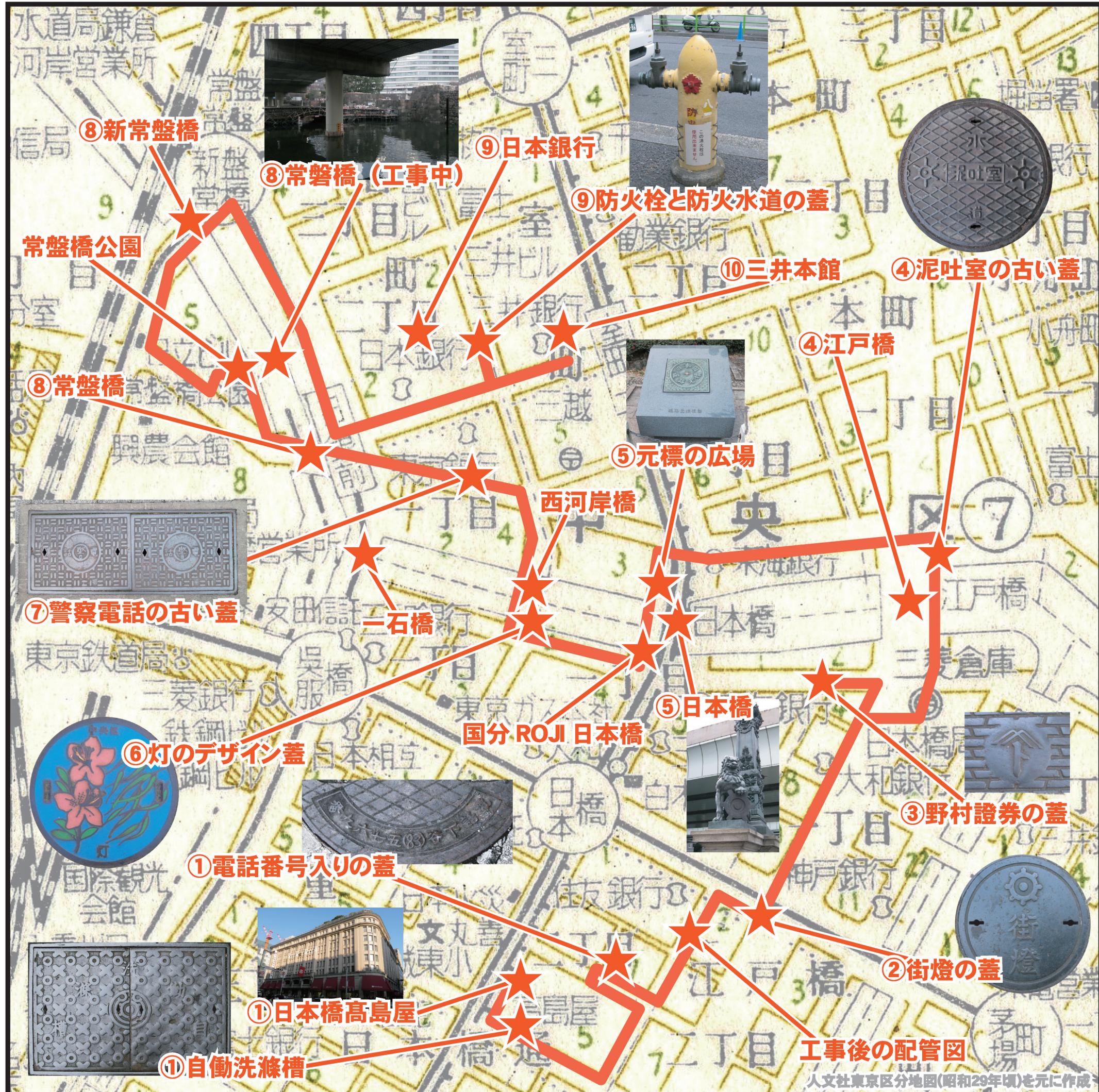


路上文化遺産～日本橋 橋めぐり・鉄蓋めぐり



- ①日本橋高島屋**
本館は昭和八年竣工ですが、周辺にはその頃に設置されたと思われる古い蓋が集中しています。自動洗滌槽や昔の電話番号が書かれた蓋などがあります。また地下鉄入口には共同溝の覗き窓があります。
- ②街燈の蓋**
都章に似た「灯台」の地図記号が入った「街燈」と書かれたと蓋が残っています。昭和通りは昭和三年の開通ですので、この蓋もその頃の設置だと思われます。
- ③野村證券の蓋**
野村證券の本社から東京証券取引所へ続く小道の地下には通信用の専用線が埋設されているようで、地上には屋号である「ヤマト」が入った蓋が多数見られます。ノルマが厳しいところから、この屋号をもじり「ベトヘト證券」とも呼ばれているそうです。日本橋野村ビルディングは昭和五年竣工ですが、この蓋はそこまで古くはないように見えます。
- ④江戸橋**
「泥吐室」と書かれた上水道の古い蓋が残っています。水道管に溜まった泥を川に流すための弁が格納されています。現在の橋は昭和通りの開通に合わせ昭和二年に架けられています。
- ⑤日本橋**
橋の中央に「日本国道路元標」が設置されています。橋の欄干には、東京市章を持つた獅子が設置されています。東京市章には「日」「本」「東」「京」「市」の五文字が隠されています。現在の日本橋は二十代目で明治四十四年に架けられています。
- ⑥灯のデザイン蓋**
東京二十三区内では珍しく綺麗に彩色されたデザイン蓋が設置されています。デザインされているのは中央区の花と木の、「ツツジ」と「ヤナギ」です。
- ⑦警察電話の古い蓋**
「警」の字と「電話」の文字が入った蓋があります。警察専用電話の設備が格納されている(いた)ものと思われます。同じ蓋は皇居周辺に二組のみ見つかっています。
- ⑧常盤橋・常磐橋・新常磐橋**
現在日本橋川には、常盤橋・常磐橋・新常磐橋と三つの「ときわばし」が架かっています。常盤橋は江戸時代初期から江戸城の正面玄関「常盤橋御門」の見附に繋がる橋として存在しており、現在残るものとも古い橋は明治十年に架橋された常磐橋です。造られた当時は常盤橋（磐の字が違う）といふ名だったのですが、昭和元年に下流に新しい常磐橋が架橋されると古い橋は常磐橋と表記されるようになりました。また、新常磐橋が最初に架橋されたのは大正九年で現在の常磐橋よりも古くからありました。なお、現在の新常磐橋は昭和六十三年に架けなおされたものです。
- ⑨日本銀行**
日本銀行周辺では、古い「制水弁」の蓋の他に、東京消防庁が分離する前の時代の地上型防火栓や珍しい「防火水道」の蓋が残っています。
- ⑩三井本館**
昭和四年竣工の三井本館には、当時三井が取り扱っていた業務や商品をモチーフとした十二枚レリーフが飾られています。